

## ポイントシステムを安定稼働し、 リテイル事業強化の基盤づくりに貢献

東京急行電鉄(株)様、東急カード(株)様では、『東急沿線』のブランド力強化、沿線間の競争力アップにつなげるべく、東急グループの各リテイル施設の利用促進等、リテイル事業の強化を行ってきました。その重点施策の一つが、TOKYUポイントカード「TOP&」。ICカード「PASMO」とのスムーズな連携、そして「PASMO」利用に際しTOKYUポイントを付与するサービスの実現に向け、新たなシステムの構築が進められました。

### 金銭と同等のポイントを扱うため、 データの確実な保護と拡張性が必須

東京急行電鉄(株)様、東急カード(株)様が進めるリテイル事業強化において期待されるTOKYUポイントカード「TOP&」と「PASMO」の連携です。

新システムの構築にあたっては、金銭と同じ働きをするポイントを取り扱うシステムであることから、データの保護は絶対条件。ストレージにはいままでない信頼性と可用性が求められました。また、今後のカード発行枚数の伸びを想定し、柔軟な拡張性も必要でした。

そこでプラットフォームとして選ばれたのが、富士通のストレージシステム「ETERNUS2000」でした。

TOKYUポイントを管理している既存システムである同シリーズの「ETERNUS3000」が安定した運用実績をあげていたのに加え、データ保護のための徹底した設計思想が評価されました。

例えば、ディスクドライブの故障の兆候を検知すると自動的にデータのコピーを開始する「リダンダント・コピー機能」等、従来はミッドレンジクラス以上の製品に含まれていた高度な機能を搭載し、信頼性がより向上しました。

製品テストでも、疑似故障テストを約4万回繰り返す等、あらゆるトラブルに対応できるよう、事前に検証・改善を徹底し、可用性が追究されています。

### ストレージとサーバをラック1本に収め、 稼働しながらの増設もスムーズに

省スペースも重要な導入ポイントとなりました。TOKYUポイントシステムのハードウェアは、信頼性を重視してデータセンターに設置されていたため、ランニングコストを抑える上でも、ストレージとサーバをあわせてラック1本に収めることが求められました。

「ETERNUS2000」は、最小2Uのスペースに12台のディスクドライブを格納可能。データ容量の増加にあわせて、ディスクドライブを最大72台まで拡張できます。

しかも業務を停止することなく容易に増設作業が行え、発行枚数が伸び続ける「PASMO」のデータの格納・蓄積には最適でした。

2007年12月には「PASMO」の電子マネー利用と「TOP&」の連携を進めた「PASMO電子マネーTOKYUポイント」サービス、そして2008年4月には「PASMO」による交通利用とクレジットカードでの買物利用を組み合わせることでTOKYUポイントが貯まる「乗って買ってTOKYUポイント」サービスが開始され、リテイル利用がさらに促進。そのシステムの安定した稼働を「ETERNUS2000」が支えています。

今後、TOKYUポイントカードを軸に、リテイル事業を強化する東京急行電鉄(株)様は、ブランド力を着実に高めつつあります。